

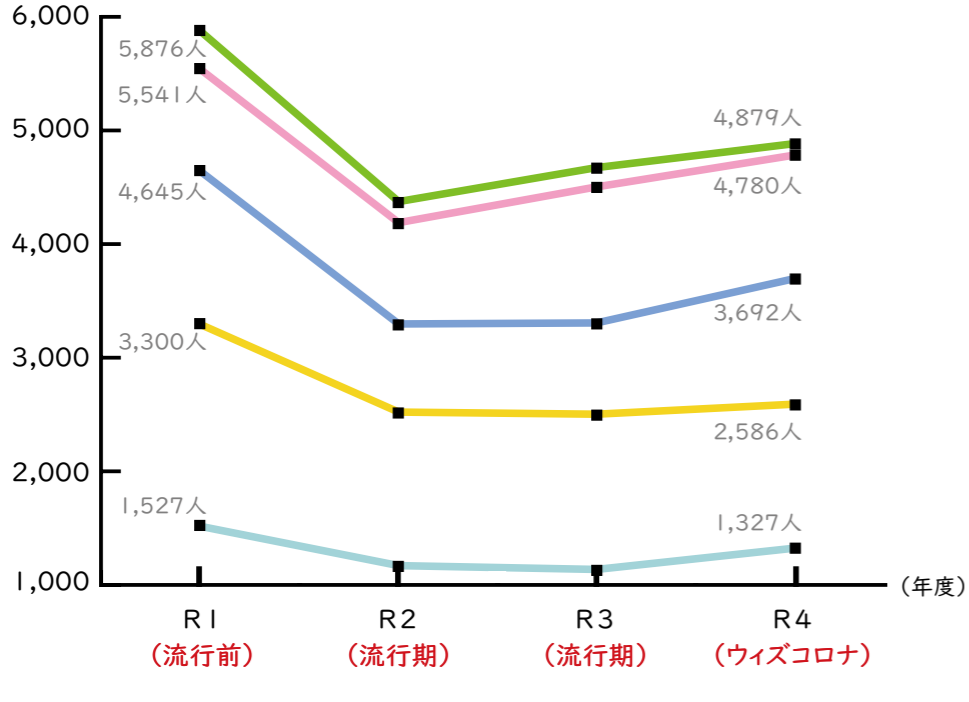
## ●日田市のがん検診受診者数の推移

全国的に新型コロナウイルス感染症の影響による受診控え等から、市町村が行う住民検診(集団検診・個別検診)は、令和元年度に比べ受診者が1割程度減少しています。

日田市でも、令和2年度(流行期)集団検診の受診者は前年度に比べ、大幅に減少しました。また、令和4年度(ウイズコロナ)も令和元年度(流行前)と比べ、**全てのがん検診で受診者が少ない状況**が見られました。



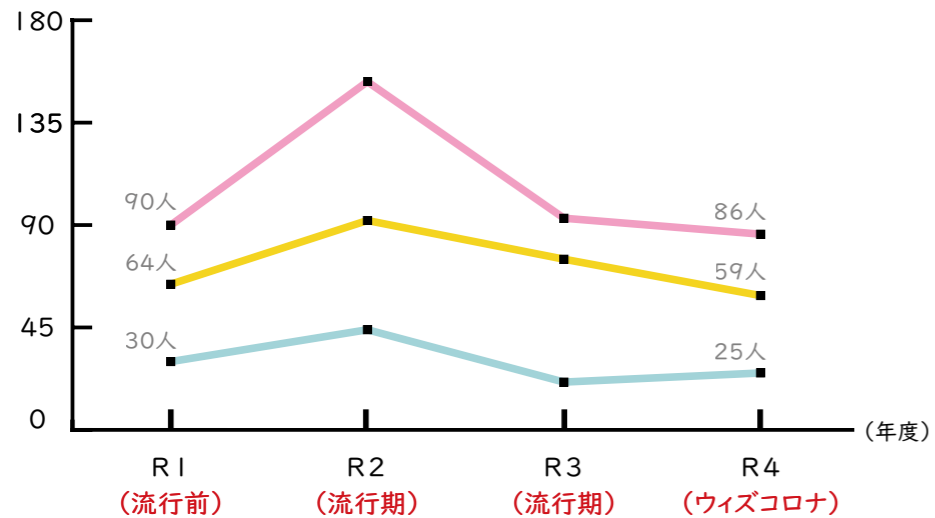
集団検診(公民館等)の受診者数の推移



高齢期(65歳以上)の人に比べ、青壮年期(40~50歳代)の人のがん検診受診が少ない状況です。

- 肺がん検診
- 大腸がん検診
- 胃がん検診
- 子宮頸がん検診
- 乳がん検診

個別検診(医療機関)の受診者数の推移



特に、20歳代女性の子宮頸がん検診と、40歳代女性の乳がん検診受診が少ない状況です。

- 大腸がん検診
- 子宮頸がん検診
- 乳がん検診

9月は「がん征圧月間」です

安心を  
明日につなぐ  
がん検診



(公財)日本対がん協会2023年度がん征圧スローガン

健康保険課健康支援係 ☎3000 (ウェルピア内)

## ●「がん」について

高齢化時代の今日、**2人に1人が生涯で1度はがんにかかる**と推計されており、加齢に伴ってかかる確率も高くなります。**がんは誰でも遭遇する可能性のある病気**ですが、日頃の生活習慣や生活環境を見直すことで、がんを予防できることも分かってきました。

また、がんは早期発見や治療法の進歩に伴い「不治の病」ではなくなりつつあります。自分や家族、親しい人ががんと向き合うことになったときに備え、**がん検診の受診やがん予防はもちろん、診断や治療方法、緩和ケアなど、様々な情報を調べておくことも大切です。**

国立がん研究センター  
公式サイトはこちら▼



## ●国が推奨する、5つの「がん検診」

現在、日本では5つの「がん検診」が有効な検診として推奨されています。これらの方法は、その有効性(死亡を防ぐ効果)があるということが科学的に証明されている検診です。

今年度、市では以下の項目に該当する人の**自己負担を無料**としています。



種類	検査項目	対象者
胃がん検診	胃部エックス線検査	40歳以上
子宮頸がん検診	子宮頸部細胞診	20歳以上
肺がん検診	胸部エックス線撮影	40歳以上
乳がん検診	乳房超音波検査又はマンモグラフィ	30歳以上(※)
大腸がん検診	便潜血検査	40歳以上

※国の対象は40歳以上ですが、女性は30歳代から乳がんの罹患率(がんになる確率)が高くなることから、市では30歳以上(乳房超音波検査のみ)を対象としています。